

第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）
12月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～原油高、円高が経済に及ぼす影響、個人や家計を取り巻く構造変化について分析しています。

- 2007/11/27 [「余暇と健康関連が下支えする個人消費」](#)
- 2007/11/27 [「就業構造変化の国際比較」](#)
- 2007/11/26 [「今回の円高が企業収益に及ぼす影響」](#)
- 2007/11/21 [「ガソリン・灯油価格の上昇が家計に与える影響」](#)
- 2007/11/21 [「変容する原油価格上昇の影響」](#)

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～サブプライムショックで不安定な動きが続く株式市場での投資の考え方を紹介しています。

- 2007/11/28 [「日本株は『買い』ではないのか（下）」](#)
- 2007/11/21 [「日本株は『買い』ではないのか（上）」](#)

掲載カテゴリ：畷峰義清の「マーケットウォッチング」

～日本経済で影響力を増しているグローバル化の実態について解説しています。

- 2007/11/22 [「グローバル化が輸出型成長を支える構図」](#)

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～注目される米国ほか海外経済の情報をお届けします。

- 2007/12/14 [「海外 経済指標・イベント予定 ” Weekly Global Economy ”」（毎週金曜配信）」](#)

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」

編集後記

あけましておめでとうございます。本年も皆様の関心が高い経済のテーマについて、より多くの分析に取り組んでいきたいと思っております。引き続き、第一生命経済研究所と経済研レポートをご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。



今月の経済研レポートで柵山副主任エコノミストが解説している「民間調査機関の経済見通し」では、今年度の日本経済の成長率予想は建築基準法改正の影響などで下方修正され、来年度もこの反動を多くは見込んではいないという。ただ来年度後半には、IT産業の在庫循環に沿って景気減速に入るという見方と、新興国など海外の成長のトレンドが変わらないため、米国景気の持ち直しを背景にむしろ景気に堅調さが戻るという見方とに分かれる。

世界経済が新興大国の台頭によって新たな局面に入ったことは事実だとしても、これまでのペースで拡大を続けることができるのか、あるいは一度は停滞期入りを覚悟しなければならないのかは、今のところ断定できない。ただ、グローバルに一体化していく世界から日本経済が受ける影響は、ますます大きくなることだけは間違いない。新たな年に新たな課題。エコノミストが読み解かなければならないテーマは今年も尽きない。

(H. U)